講演

日時／平成31年2月13日（水）13：30～15：00
会場／日本特殊陶業市民会館フォレストホール

名古屋市内9法人会合同講演会

AIが創りだす 今後の30年間の世界

富士通株式会社　常務理事
首席エバンジェリスト兼エバンジェリスト推進室長

中　山　五輪男（いわお）　氏

キーワードは デジタルトランスフォーメーション

私は大学を卒業後に外資系コンピュータの会社３社を経てから、ソフトバンクに入社、約16年間いろいろなプロジェクトを担当し、2017年夏に富士通に転職しました。現在は富士通の製品・サービス・最新技術などを広めるのが私のミッションです。

米国アップル社が公認する、日本人でiPhoneのエバンジェリスト（伝道師）は私と孫正義氏の２人だけですので、ソフトバンクでもエバンジェリストとして活動をしていました。

今年のＩＴビジネスを予想したいと思います。電波新聞の「2019年の注目分野と技術トレンド」によれば、デジタルトランスフォーメーション分野で晴れマークがついているのは「クラウド」「ＡＩ／ＢＩ（ビッグデータの分析）」「IoT」です。

働き方改革分野では「クラウド」「チャットボット」「ＲＰＡ」です。すでにＲＰＡの導入が始まっていますが、ＲＰＡとは定型的な事務作業を自動化するテクノロジーです。

パソコンはWindows7からWindows10への移行が本格化すると言われています。

サービス分野では「クラウド」、セキュリティ分野では「サイバー攻撃対策」「IoTセキュリティ」「ＳＯＣ（セキュリティオペレーションセンター）」に晴れマークがついています。

最近よく使われる「デジタルトランスフォーメーション（ＤＸ）」はＩＴ世界の一番重要なキーワードです。これは第３のプラットフォーム（クラウド、モビリティ、ビッグデータ、アナリティクス、ソーシャル技術）を利用して新しい製品やサービス、ビジネスモデルを通じて競争上の優位性を確立することで、多くの企業がＤＸで自分たちの施策を考えています。

現状を把握し
過去を振り返り
未来を予想

間もなく平成の時代は終わります。1989年から平成はスタートしました。その年にベルリンの壁が崩壊、平成７年にはサリン事件がありました。平成10年長野オリンピック開幕、この頃には平成のバブルは終わっていました。平成20年私の人生を180度変えたiPhoneが登場しました。

これから平成を超える激動の時代がやってくると言われています。シンギュラリティの到来です。「シンギュラリティ」、つまり2045年頃にはＡＩや最新テクノロジーが人間を追い越していって、世界が大きく変わるというのです。これからどうなっていくのか。現状を把握し過去を振り返り未来を予想することが大事です。

平成30年秋、世界の企業の時価総額ランキングの１位はアップルでした。その後マイクロソフトが抜き、アマゾンが抜き、翌週マイクロソフトが抜き、現在の１位はマイクロソフトです。２位がアマゾン、３位がアルファベット（グーグル）、４位はアップルです。このトップ４は強いです。共通しているのはイノベーション経営で成り上がってきたことです。イノベーション経営は大事なキーワードです。

ではバブル全盛のときはどうだったのか。世界１位はダントツでＮＴＴでした。２位は日本興業銀行、３位住友銀行、４位富士銀行、５位第一勧業銀行、やっと６位が当時世界No. １のコンピュータメーカーであったＩＢＭでした。それが、今から20年ほど前にインターネットと言う言葉が使われ始め、インターネットの波が押し寄せてきたのです。しかし当初は日本企業の経営者たちは、インターネットもiPhoneもやらないほうが良い。怖い！の一点張りで、その価値に気づいていませんでした。

バーチャルリアリティが
変える経済のカタチ

これから来るのはバーチャルリアリティー（VR・仮想現実）の波です。今後数年間で５倍以上の市場の成長が見込まれています。アッと言う間にテレビの市場をVRが越えてしまうでしょう。スマホ世代と言われる子どもたちはテレビを観ません。動画をユーチューブで観ます。ラインで友だちとコミュニケーションして、iPhoneのゲームで遊ぶ。そんな彼らがVR世代へと変わるのです。

VRで生活は大きく変わります。ショッピングは、ネットで人工知能とユーザーが会話をして買い物をします。旅行も家に居ながら、あたかも海外に旅行をしているような体験ができます。医療面では、バーチャルで手術直前のリハーサルができますので、手術が正確で短時間になります。

会議室で会議はしません。アバター（自分の化身）が仮想空間の会議室に集まり会議が進められます。

VR元年と言われた2016年まではVRでゲームをつくっていたのですが、近年は企業向けのVRコンテンツ制作にシフトしてきて、今年の世界のＶＲの市場予想では65％がビジネスの目的で利用され、2022年には80％に上昇するだろうと言われています。

企業が期待を寄せるのは「疑似体験」の効果です。介護スタッフのＶＲ空間の中での社員研修や、高層ビルの建築現場では、予想外の危険をＶＲで体験することで事故が減ることが期待されています。

トヨタ自動車はマイクロソフトのホロレンズを導入することで、例えば工場に大きな機械を設置するとき、搬入・搬出、置く位置の確認など事前に検証しハプニングを防げます。

脳に
チップを埋め込む

もっとすごい時代がきています。例えば難治性てんかんの患者さんは、発作を起こすと倒れて危ないのですが、患者さんの脳にチップを埋め込んでおくと、「あと30分以内に発作を起こす可能性が何％です」と教えてくれますので事前に対処できます。自分の身を守るためにチップを頭に埋め込む時代がやってくるそうです。

電気自動車テスラのイーロン・マスク氏、フェイスブックのマーク・ザッカーバーグ氏も「心とコンピュータ」の開発にとても興味をもっています。マーク氏は、心で思うだけでテキストを入力できるインターフェースを開発しています。例えば、スマホを持っていて、今何時だっけ？と思うとスマホが反応して時間を教えてくれます。お腹が空いたのでコンビニに入り買い物をして「幾らだっけ？」と心でつぶやくだけで、合計金額を教えてくれるのです。

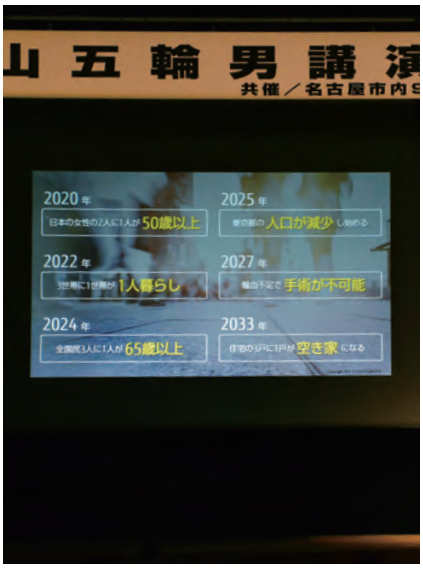
優秀なＡＩを搭載したロボットは私たちの仕事を手助けしてくれますし、人間を乗せて飛ぶことができるドローンも開発中です。空飛ぶ自動車をトヨタ自動車も開発しています。

「ソサエティー5.0」

いま日本が提唱しているのは「ソサエティー5.0」、仮想空間とリアルな空間を高度に融合したシステムにより経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会のことです。

キーワードは「ドローン宅配、ＡＩ家電、遠隔医療、スマート農業、スマート経営、自動走行」です。

車にはいろいろなセンサーがついていて、周りの状況を把握し対策をとりながら走行します。私も最新のＡＩを搭載した自動運転の車を購入したのですが、高速道路では回りの状況を判断して自動で走行してくれますから、私はほとんど手足は使



いません。ウインカーを出すと前後左右を確認して車線変更してくれます。道路の標識も認識してくれます。駐車場ではピタッと正確に停まります。

「AI ×働き方改革」ですが、富士通はマイクロソフトと手を組み、働き方改革システム「Zinrai for365ダッシュボード」を開発しました。一人ひとりの社員の働き方をグラフで「見える化」したツールです。何が原因でプロジェクトが停滞しているのか、どうすればデキる社員に変わるのか。ダッシュボードが業務状況を分析し、問題が発生している箇所にはアラームが表示され、アラームをクリックすると詳細を確認することができます。社員の働き方を「見える化」して初めて働き方改革の対策ができるのです。

昨年、富士通で実際に使ってみましたら、社員一人当たり一日43分を創出することができました。その時間はコア業務に回すことができます。

新しいことに取り組む勇気

日本はキャッシュレス決済手段の種類が豊富ですが、なかなか浸透していません。キャッシュレスが進んでいるのはスウェーデンで、現金の使用率は４年前で1.7%です。

中国ではキャッシュレス化が爆発的に進んでいます。テンセントグループの取引額は133兆円、アリババPayは188.7兆円です。

中国のレストランでは、スマホでメニューを選んで決済、注文はキッチンの画面に表示され料理人にすぐに伝えられ効率がいいです。地元の市場にもＱＲコードが貼られていて現金なしで決済可能です。

ネット決済は、支払い状況を基に点数で個人を格付けし、それによって受けられるサービスに差がつきます。国はその格付けデータを利用し情報を管理する制度の構築に取り組み始めました。個人情報の二次利用、三次利用は中国では当たり前です。

日本でも、みずほ銀行とソフトバンクが手を組んで、Ｊスコアという会社をつくって企業をランキング、ランキングの高い企業には低い金利で貸し付けしています。これが個人に発展するのは時間の問題です。

キャッシュレスの課題もありますが、日本もこれからはキャッシュレス社会に入っていきますので、皆様はキャッシュレス対応をした店舗づくりをしてください。

勇気をもって新しいことに取り組むことが大事です。新しいことにどんどんチャレンジされることをお薦めします。

※ この記事は平成31年２月13日（水）の講演を要約したものです。

文責／ 公益社団法人 名古屋西法人会